

JIGSプロジェクトの来歴と展開

—利益集団と市民社会の国際比較研究の今後—

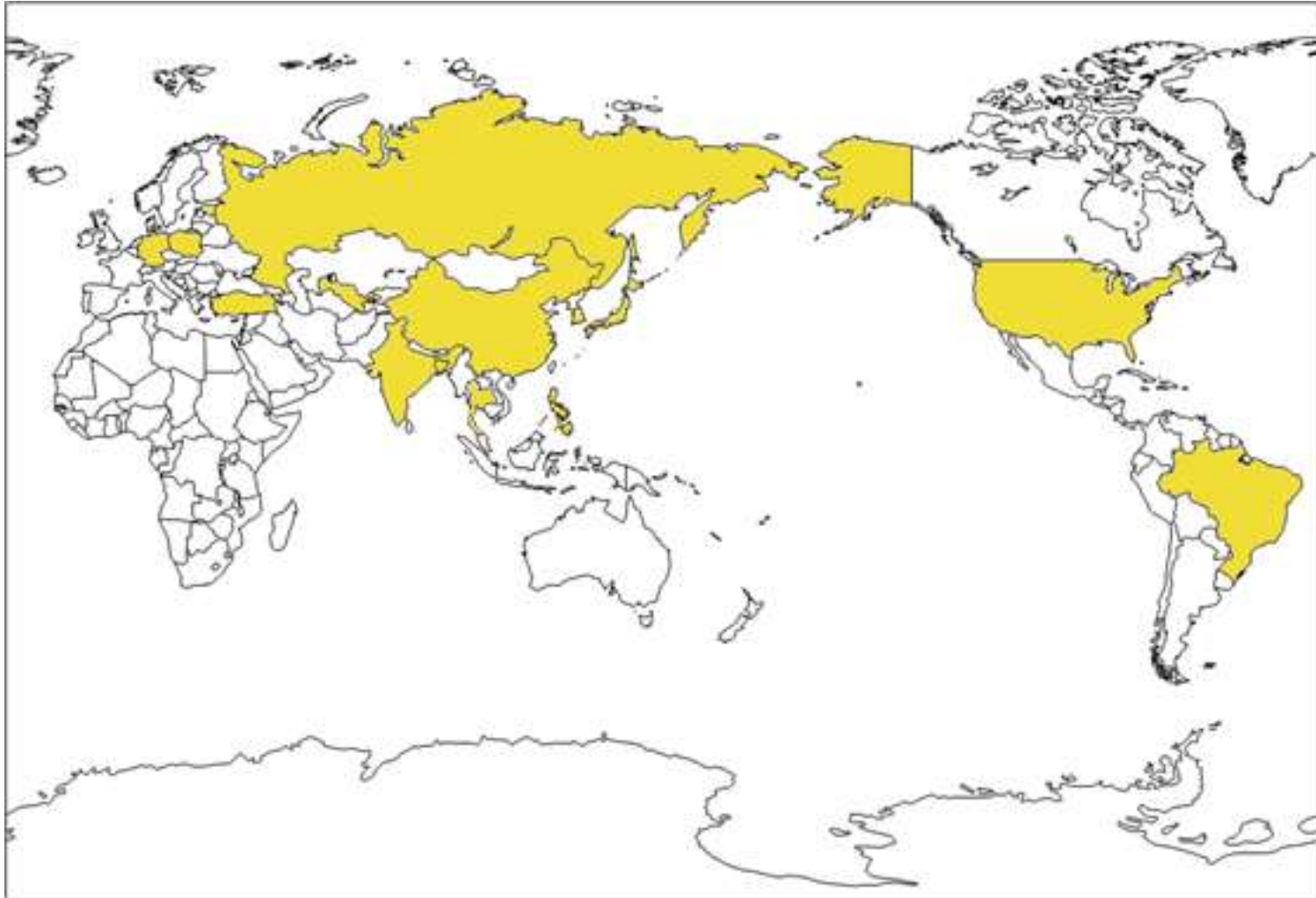
辻中 豊

(人文社会系教授)

1. JIGSプロジェクトとは 2. 知見 3. JIGSの来歴と展開 4. JIGSの展望

1. JIGS (Japan Interest Group Study) プロジェクトとは

サーベイ調査による**市民社会組織**の**経験的**な**日本**を出発点とする
多国間比較研究

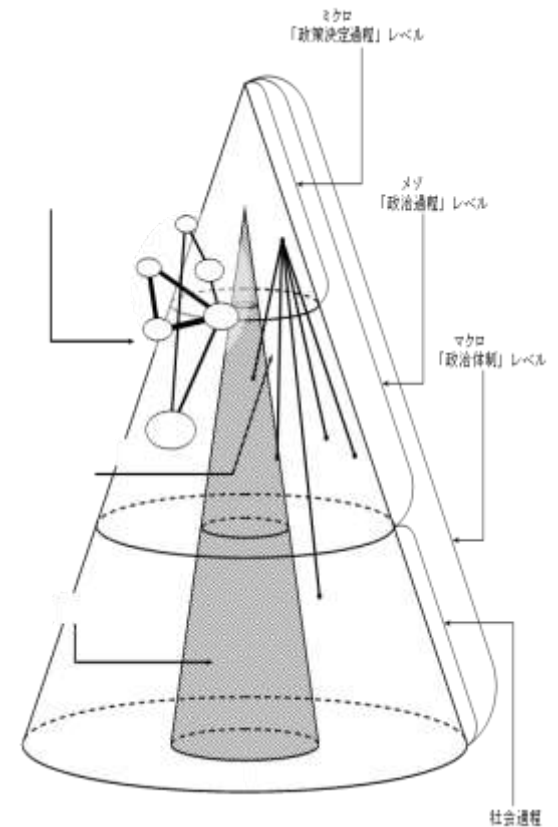
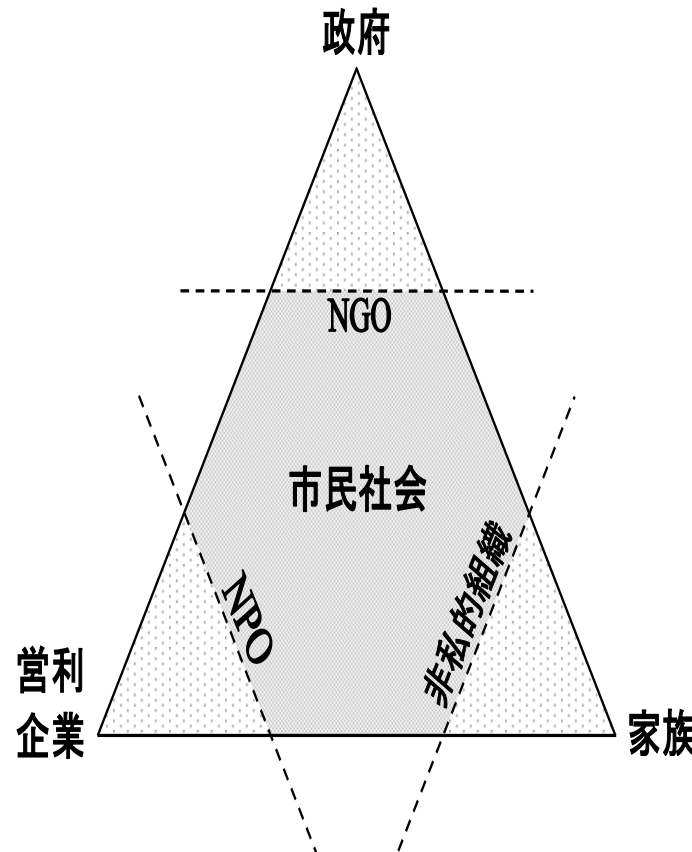


JIGSプロジェクトの目的とは

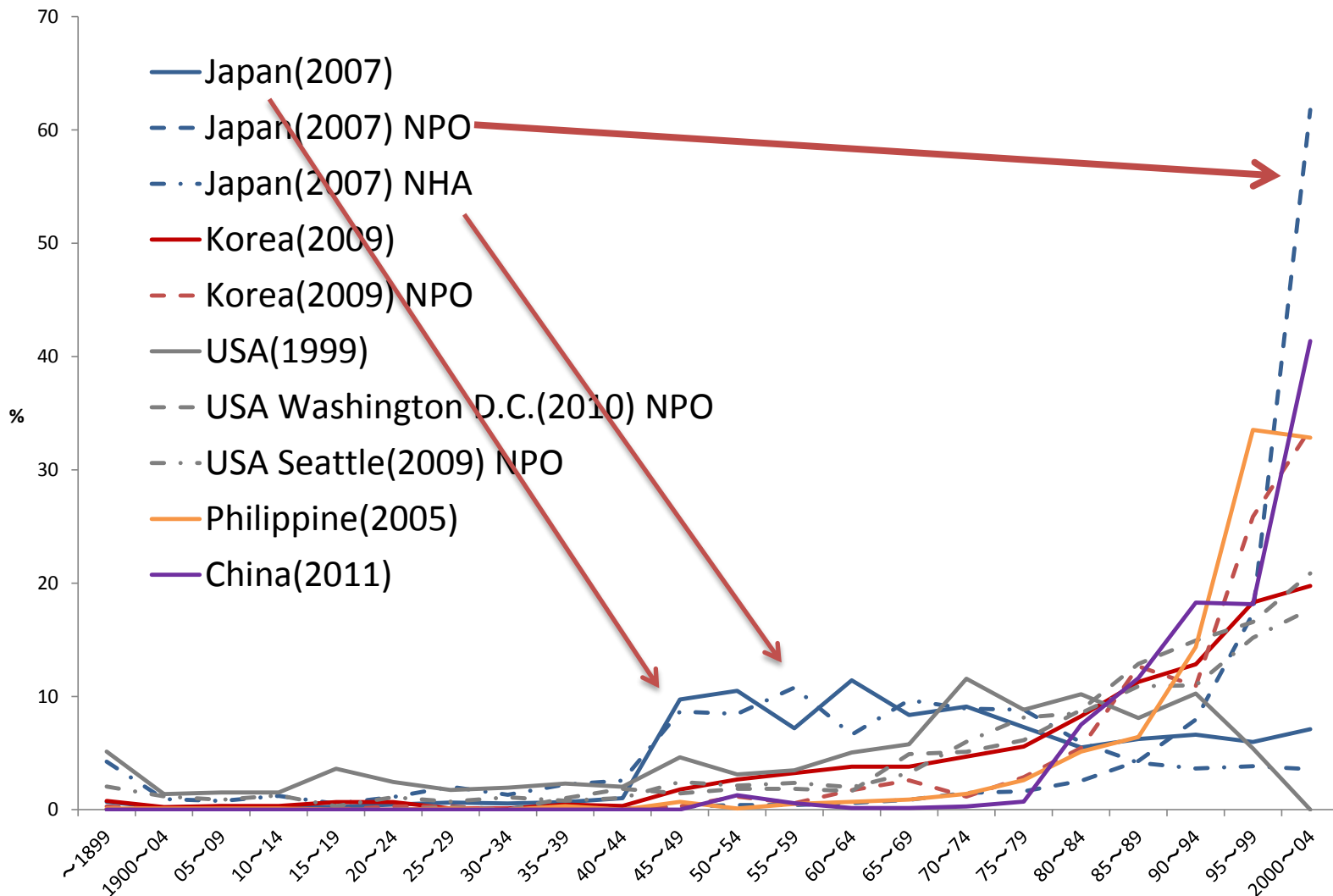
社会集団(アンパンの館、粒あん)の動向を明らかにすることによって、**政治構造を解明**する

社会集団をどのような視角から調査、研究するか

利益集団研究(政治過程論、政治経済学、**方法として「利益集団」**)と市民社会(**方法として「市民社会」**)論を統合し、**日本(方法としての「日本」)**から分析する。日本を明らかにすることは
は
世界学界への貢献

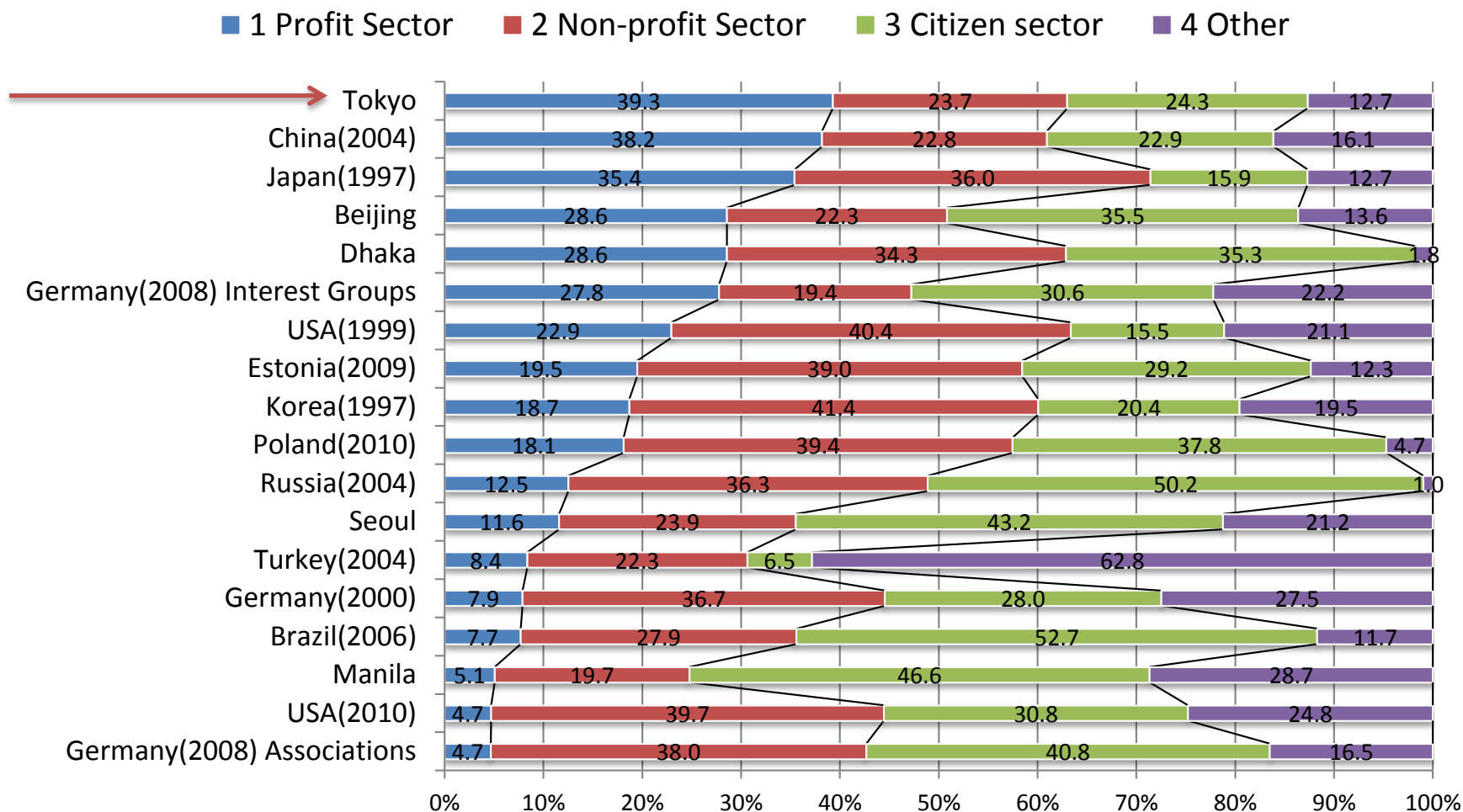


2. 知見: 設立年



- 世界的な趨勢は80年代末以降設立団体が多数
- 日本のNPOは同様
- しかし、NHA（町内会）や他の団体はドイツと並んで戦後設立が残存⁴

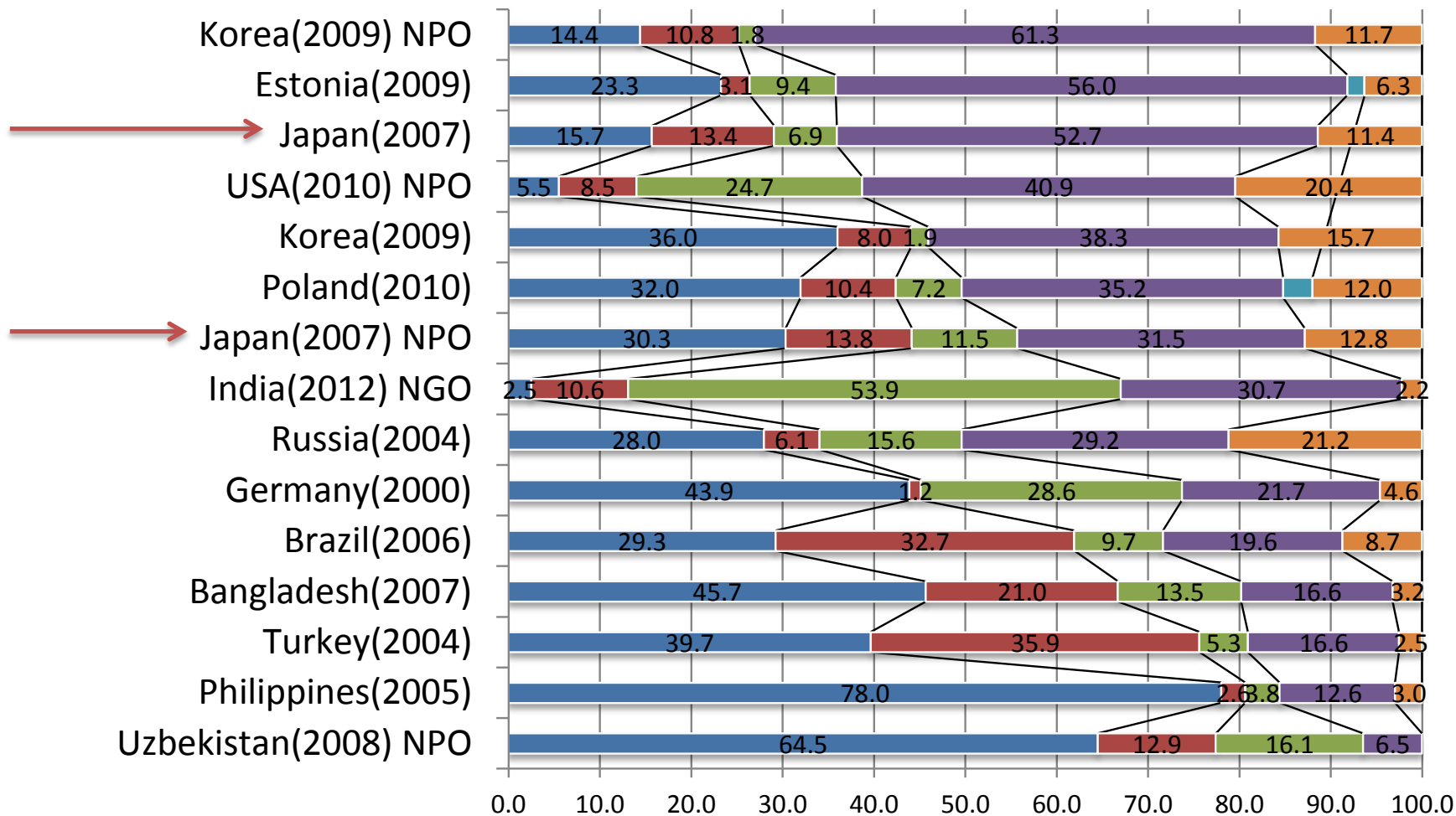
2. 知見:セクター別分布(首都地域)



- 日本は営利セクターの割合が高く、市民セクターの割合が低い
- 設立年の分布と合わせると、戦後に設立された営利セクターの団体の存在が、現代日本市民社会の特徴の一つ

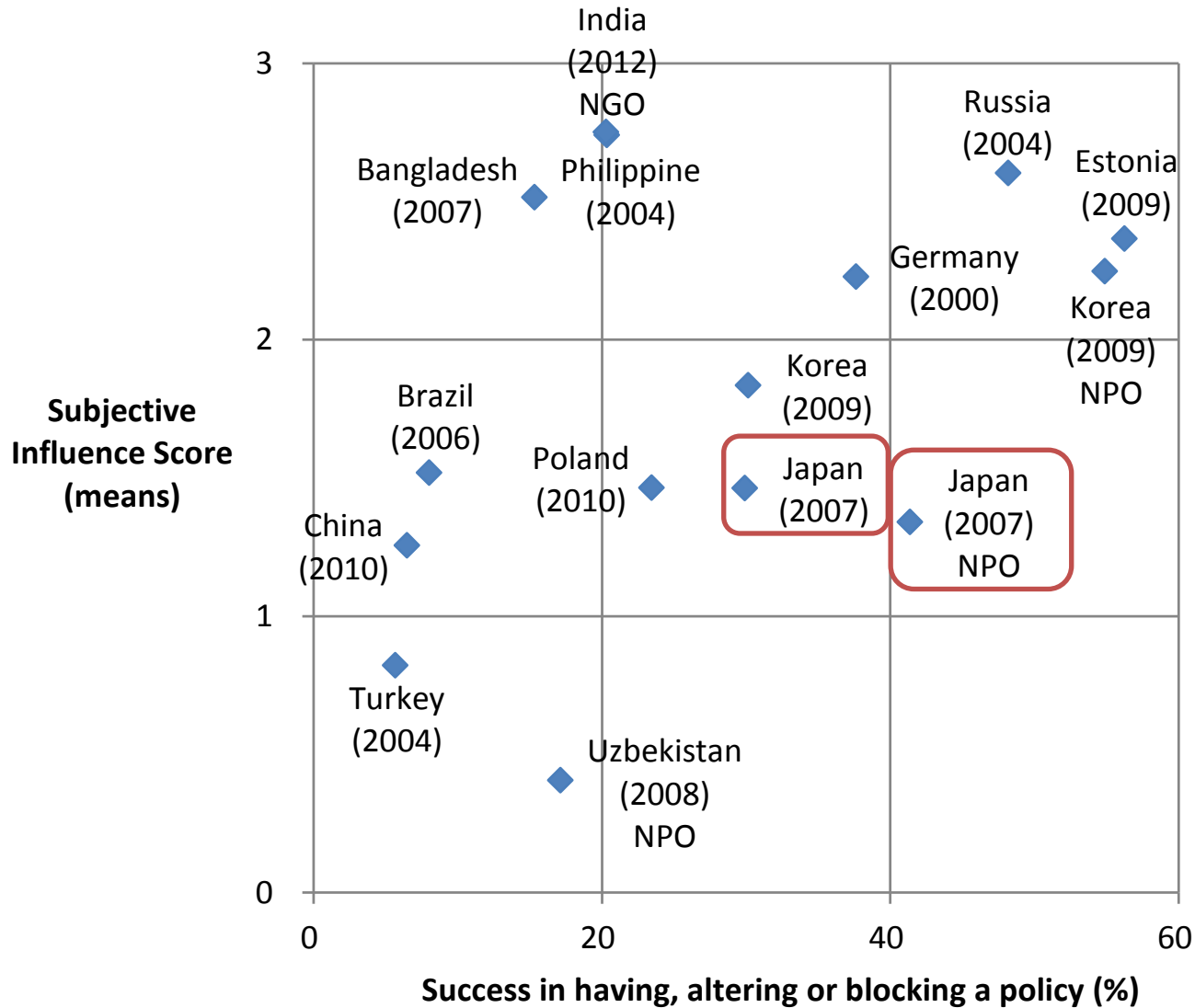
2. 知見：活動範囲(首都地域)

■ 1 Local ■ 2 Regional ■ 3 State ■ 4 National ■ 5 EU ■ 6 International



- 日本は全国レベルで活動する団体が多いグループ
- ただし、NPOではローカルに活動する団体も多い

2. 知見：政策実施・阻止経験（横軸）と自己影響力認知（縦軸）



- 両者は概ね正の相関関係にある
- 日本は自己影響力認知、政策実施・阻止経験とも中程度

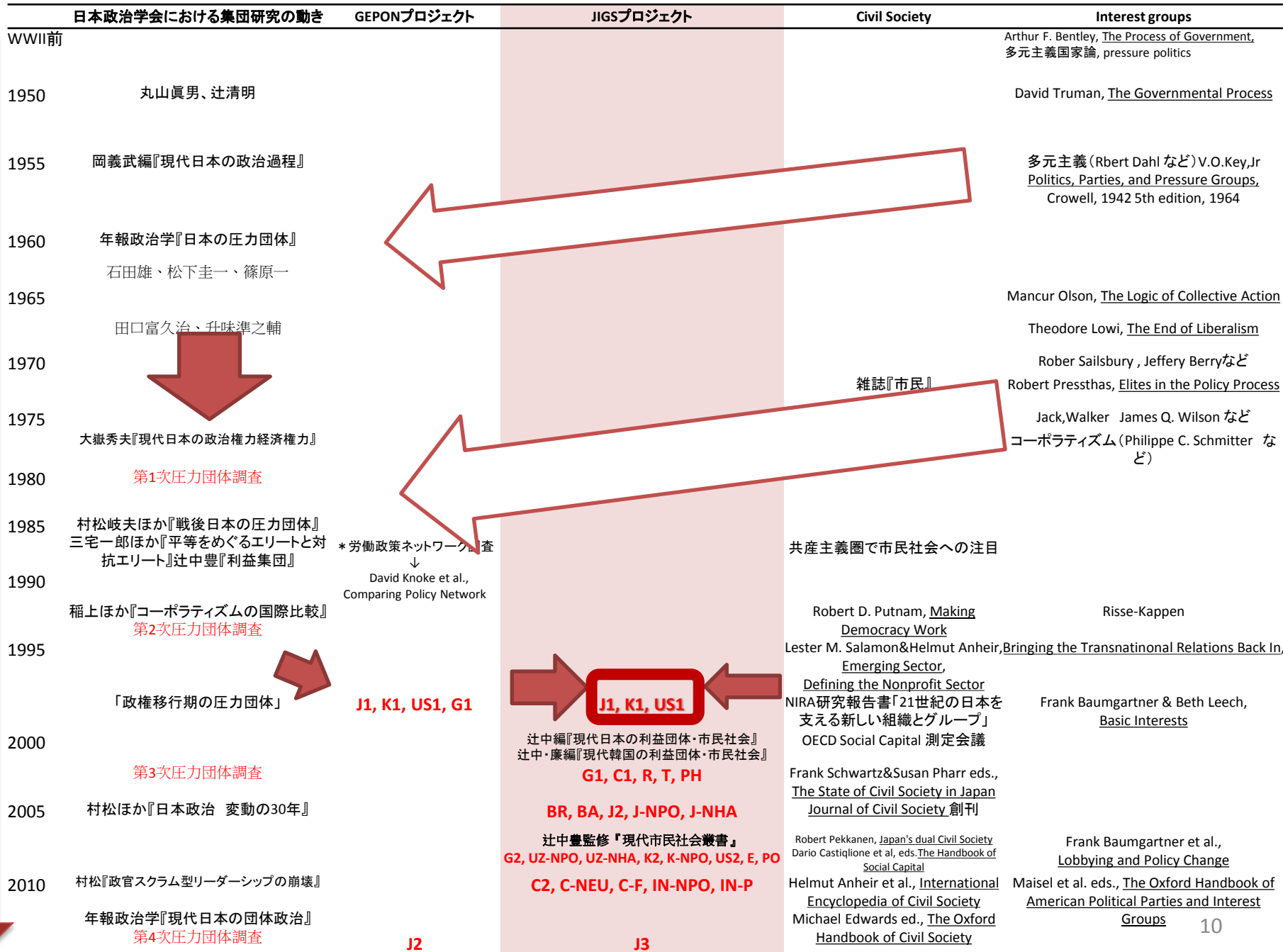
国際比較データの意味を読み込むために

3. JIGSの来歴と展開

JIGSプロジェクトの来歴と展開

← JIGSへの直接的な流れ

← JIGSへの間接的な流れ



3. 1 利益団体研究としてのJIGSの源流: 巨人の肩の上に

・戦後政治学における集団研究の伝統

- ① 丸山眞男、辻清明、岡義武、石田雄、田口富久治、升味準之輔、永井陽之助、阿利莫二、松下圭一、篠原一、小林直樹など
- ② 大嶽秀夫、村松岐夫、辻中豊、篠田徹など
- ③ 高畠通敏（市民運動）
- ④ 山口定

・サーベイ調査による集団研究

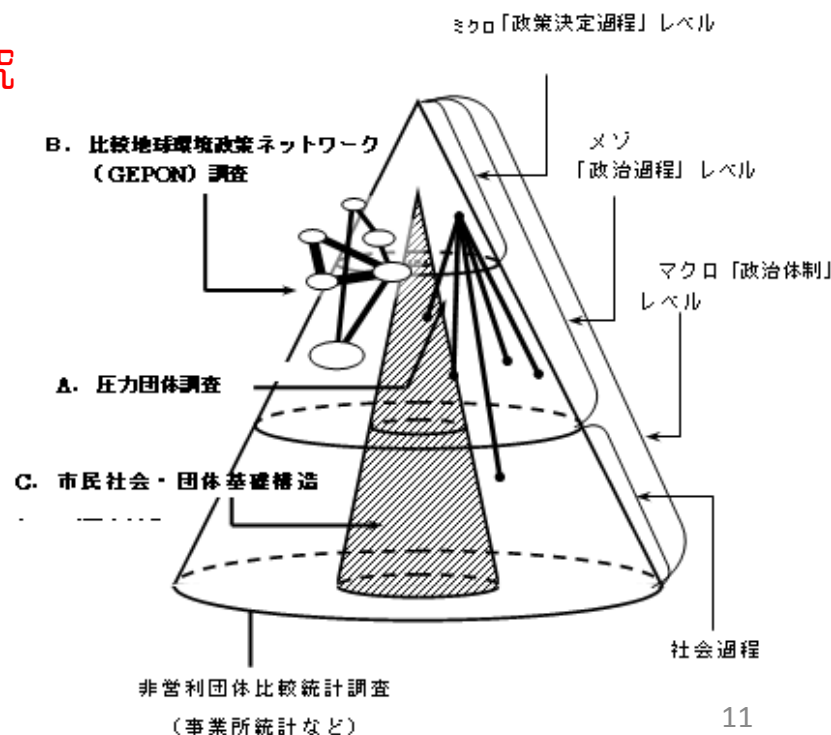
- ① 三宅一郎らのエリートサーベイ調査
- ② 村松岐夫らによる頂上レベルの
圧力団体調査＝JIGSの直接の先行研究

第1次調査：1980年：保革伯仲期
第2次調査：1994年：政権交代期
第3次調査：2003-4年：小泉政権期

・圧力団体調査からJIGS調査へ（右図）

⇒利益団体研究からみたJIGSの課題
：政治行動の実態と構造の解明

3種の関連調査の模式図



3. 2. 市民社会研究としてのJIGSの源流

総合研究開発機構（NIRA）

次の時代を担う日本の新しい組織とグループに関する研究会（1997）への参加

（座長・成田憲彦駿河大学教授）

第3章「成熟型市民社会とNPO・NGO・市民活動団体」執筆

……NPOのインパクトは、日本の政治・社会体制を変える力を持ちつつある。サラモン教授らの国際研究（1994年）が述べた、“Associational Revolution”（市民連帯革命）は、日本にとりわけ妥当する現象である。他の国々にも類似の現象は観察できるが、その歴史、社会的文脈の違いをしっかりと押さえる必要がある。日本での戦後体制の転換を、市民社会の側からNPOは担いつつあるのである（同上、23頁）。（「願望的」？な分析の例、辻中）

⇒市民社会論からみたJIGSの課題

：政治構造と市民社会が織りなすダイナミクスの解明

3. 3. JIGSプロジェクトの誕生(研究史:迷える90年代から)

- 社会集団の経験研究の難しさ
- 国際比較研究への端緒
- 政策ネットワーク調査の開始
- GEAPON調査からJIGS調査へ

90年代、中央政府レベルにおける地球環境政策ネットワーク研究に取り組むことになった。これをきっかけとして、政策ネットワークの基底である社会過程でのNGO、NPOの実態と政治学的意義の解明に、本格的に取り組みたいと考えはじめた。徹底的に包括的な、市民社会の組織的な輪切りをしたような把握を行いたいと考えた。そして1997年春、若い優秀な研究者が、筑波大学に集っていたのを幸いにJIGS-日本調査を行った(辻中編、2002年、4頁)。

* 実際「市民社会」を冠する研究プロジェクトは2000年が初出

4. JIGSの展望:原点(市民運動の政治学)にかえるために

- まとめ：JIGSの課題
 - 利益団体論：政治行動の実態と構造の解明
 - 市民社会論：政治構造と市民社会が織りなすダイナミクスの解明
- **1989-91 P.Katzensteinとの共同研究:**
- **方法として日本、方法としての市民社会、方法としての経験的サーベイ、で貫く**
- 2つの課題
 1. 各国の市民社会を通して政治構造を読み解く
 2. 国際比較研究を通して政治体制の質を測る
 - 特に、体制変動に先駆けた／体制変動には至らない国家－社会関係の変容を捉える

4. 1. 各国の市民社会を通して政治構造を読み解く

J-JIGS2 (2006-7年) を例に

- 過去からの持続

- 営利（生産者）
セクターの優位
- 官僚（行政）主導
- 自民党一党優位



- 新たな動き

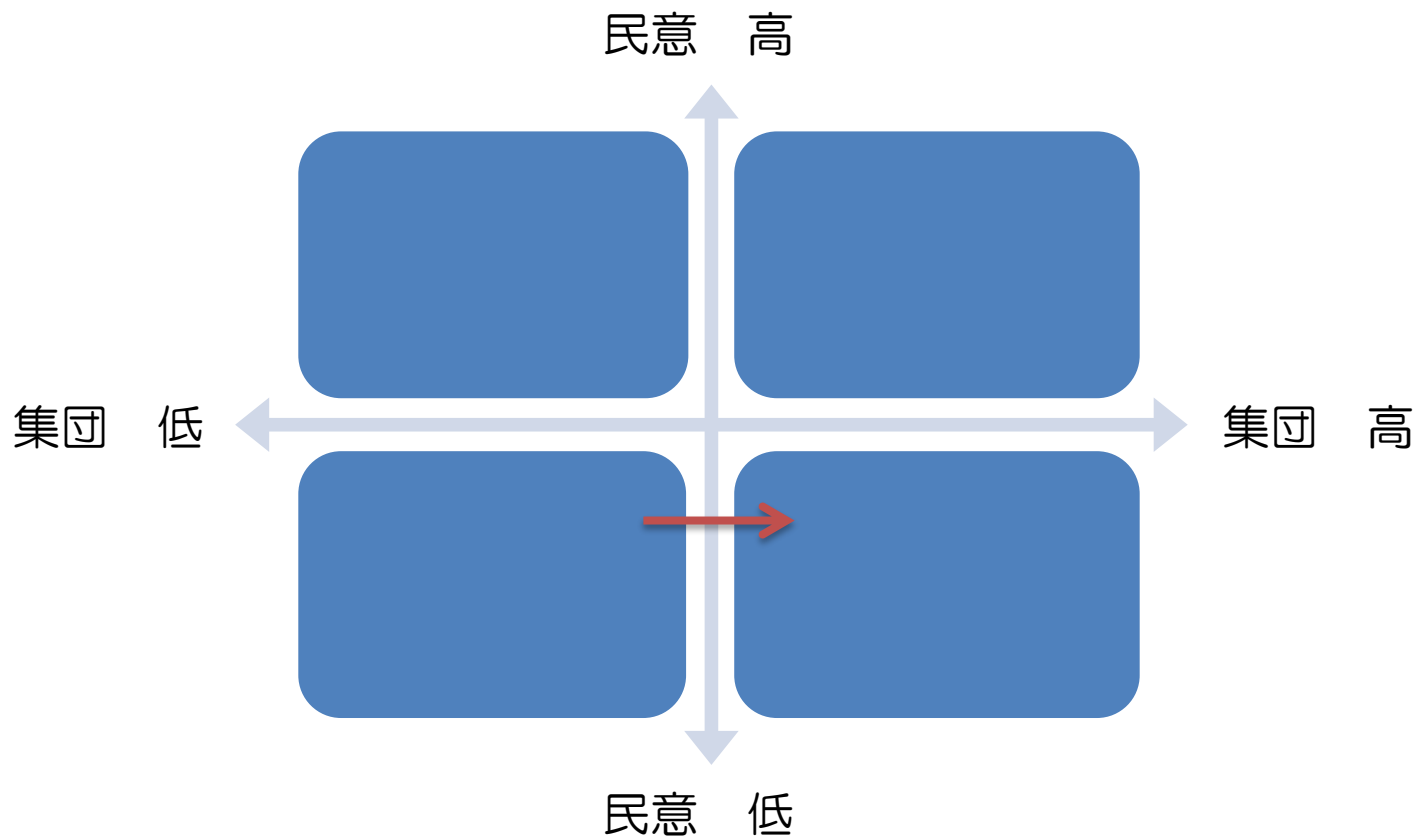
- 団体世界の平準化
- 地方行政との協働



⇒各国政治構造における市民社会の持続と変容を判別する₁₅

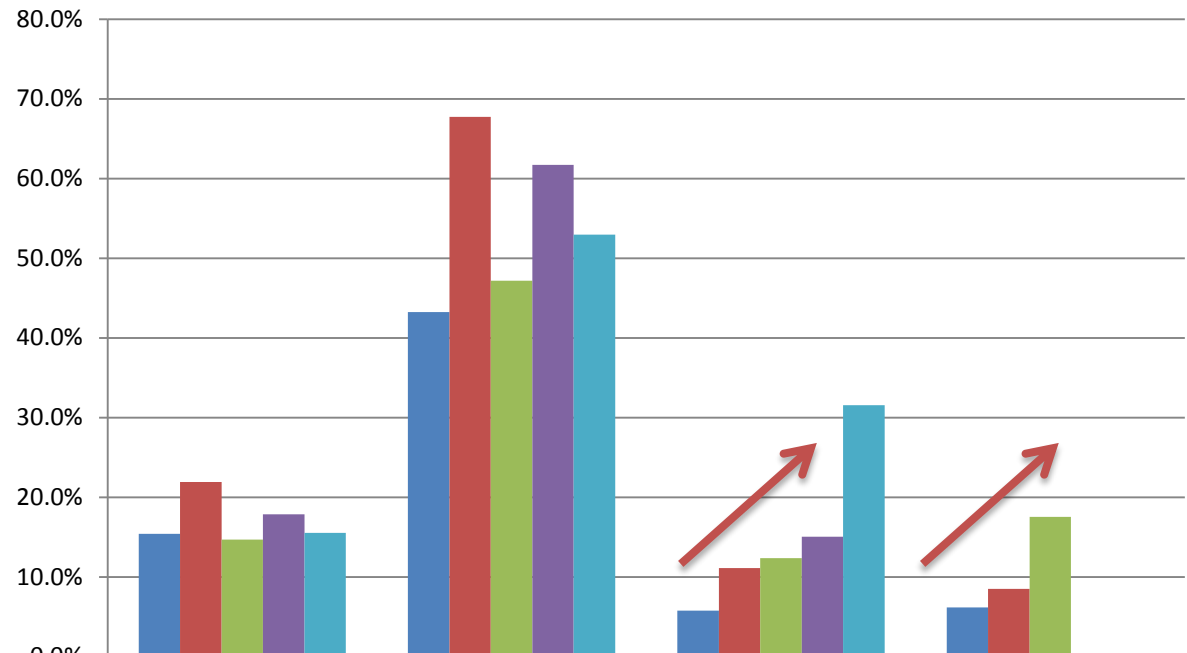
4. 2. 国際比較研究を通して政治体制の質を測る

- 同じ政治体制でもその質には多様性がある
- 中国を例に
 - 社会集団への応答性・政策経験（横軸）と民意への応答性・間接ロビー（縦軸）で類型化試論



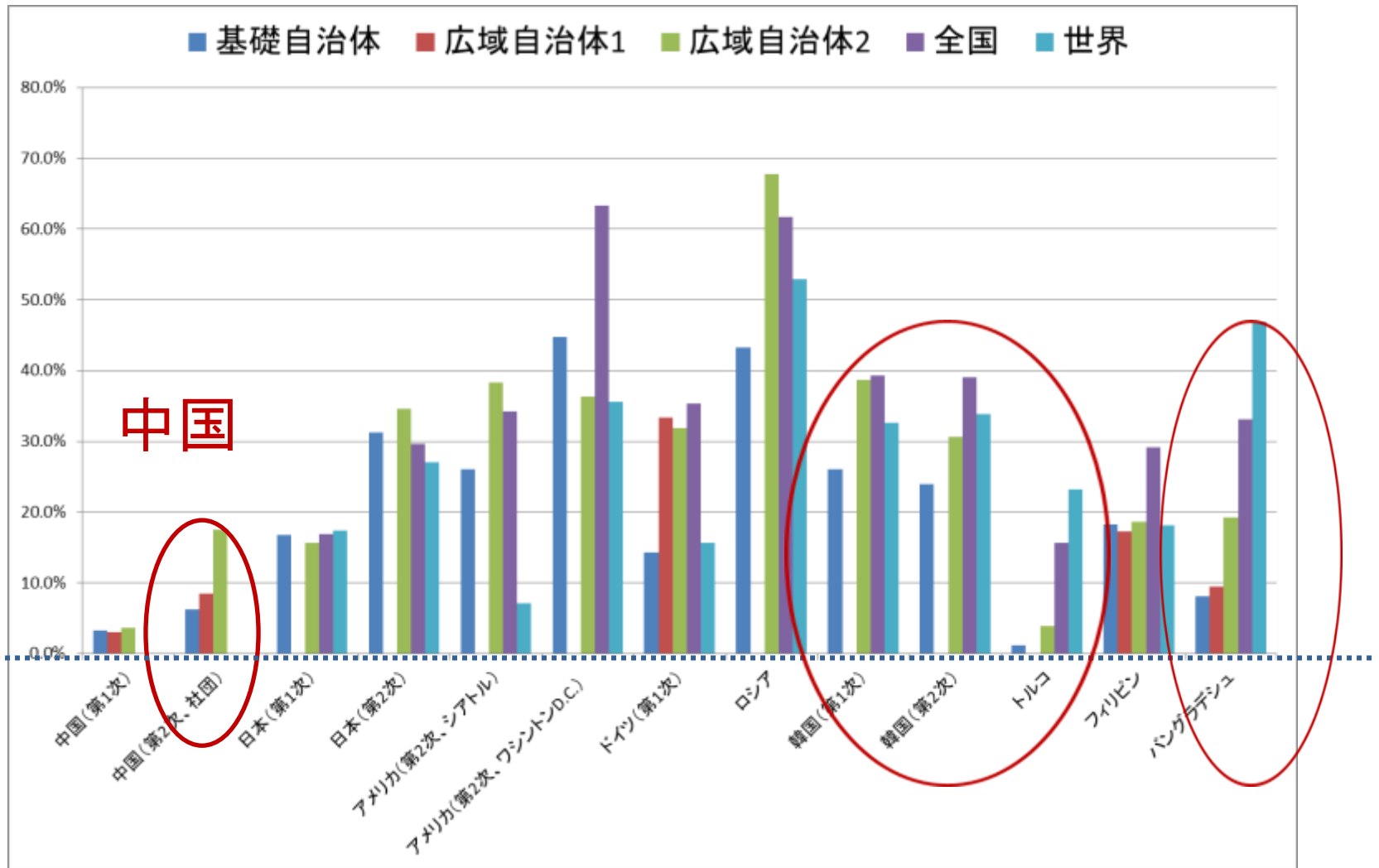
社会集団への応答性：BRICs比較

Experience of Implementing, Altering or Blocking a Policy



	Brazil	Russia	India	China
■ Municipality(B, R), Union/Ward(I, C)	15.4%	43.3%	5.8%	6.2%
■ State(B), region(R), subdistrict(I), prefecture(C)	21.9%	67.7%	11.1%	8.5%
■ Several states/regions(B,R), district(I), province(C)	14.7%	47.2%	12.4%	17.5%
■ National level	17.9%	61.7%	15.1%	
■ International level	15.6%	53.0%	31.6%	

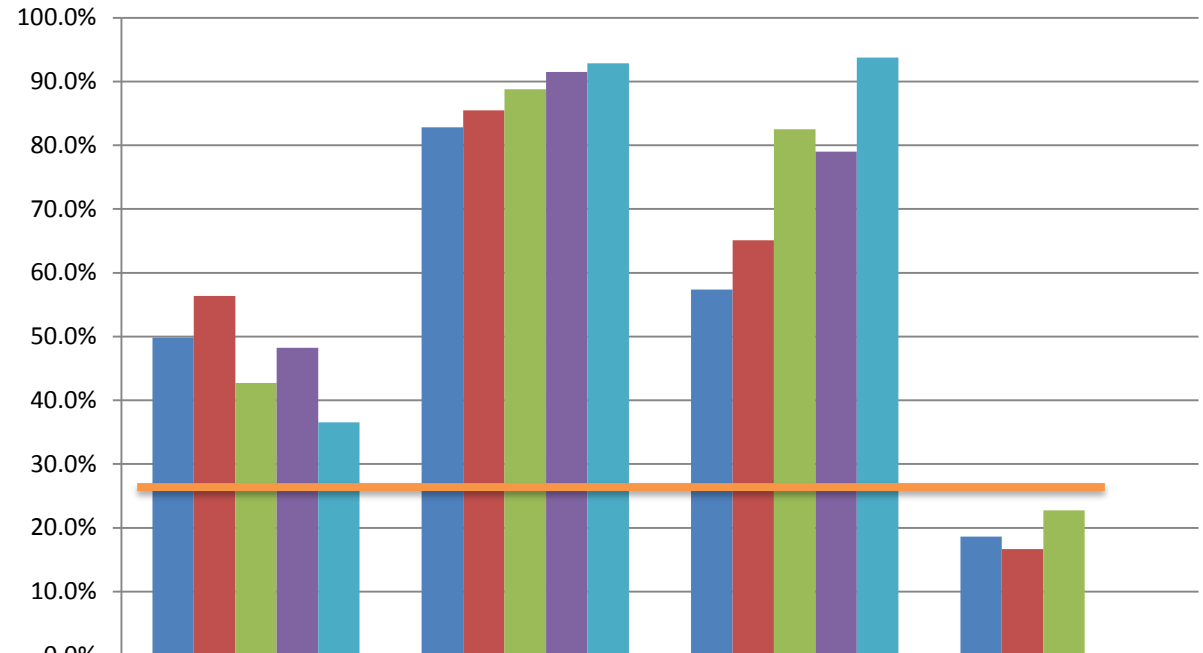
政策実施・阻止経験（国際比較）



中国の現在の型は、韓国、トルコ、バングラデシュと類似 18

民意への応答性：BRICs比較

Outside Lobbying

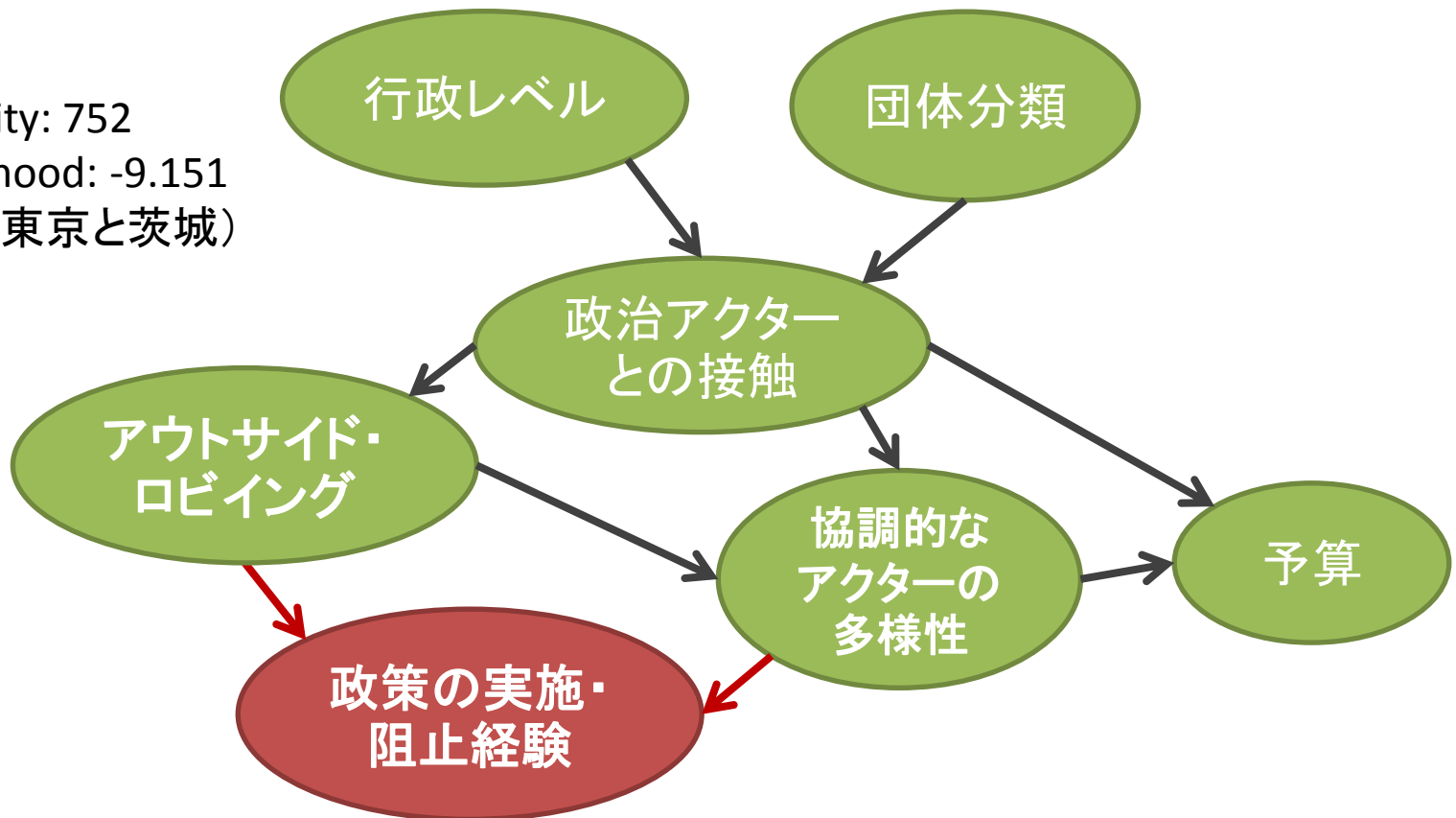


	Brazil	Russia	India	China
■ Municipality(B, R), Union/Ward(I, C)	49.8%	82.8%	57.4%	18.6%
■ State(B), region(R), subdistrict(I), prefecture(C)	56.4%	85.5%	65.1%	16.7%
■ Several states/regions(B,R), district(I), province(C)	42.7%	88.8%	82.5%	22.7%
■ National level	48.2%	91.5%	79.0%	
■ International level	36.5%	92.9%	93.8%	

実施・阻止経験を決める要因は何か

日本（第2次）の推定結果

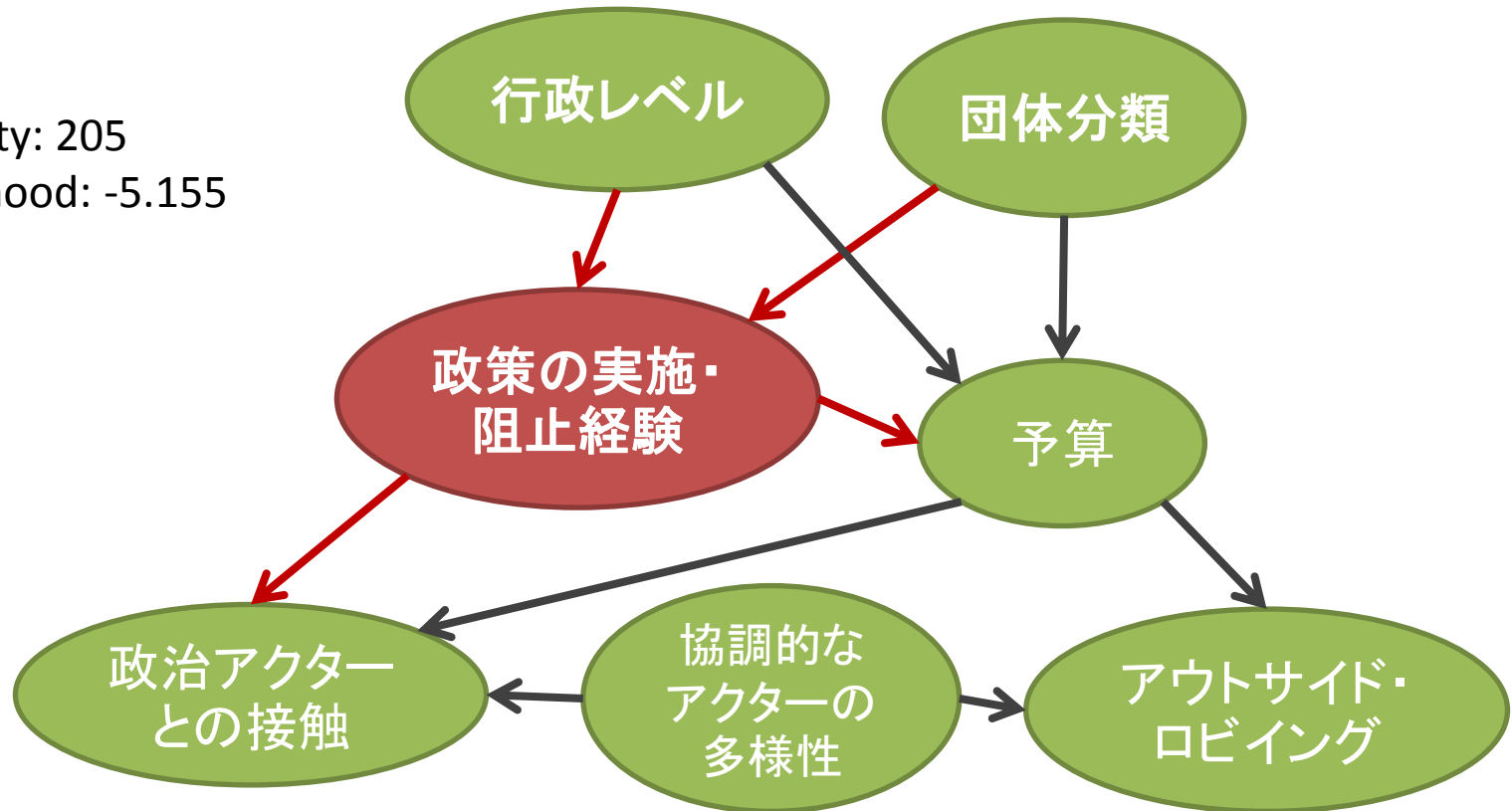
Complexity: 752
LogLikelihood: -9.151
N: 2108(東京と茨城)



- 多様なアクターとの接触、アウトサイド・ロビイングが政策の実施・阻止経験を決める要因となっている。

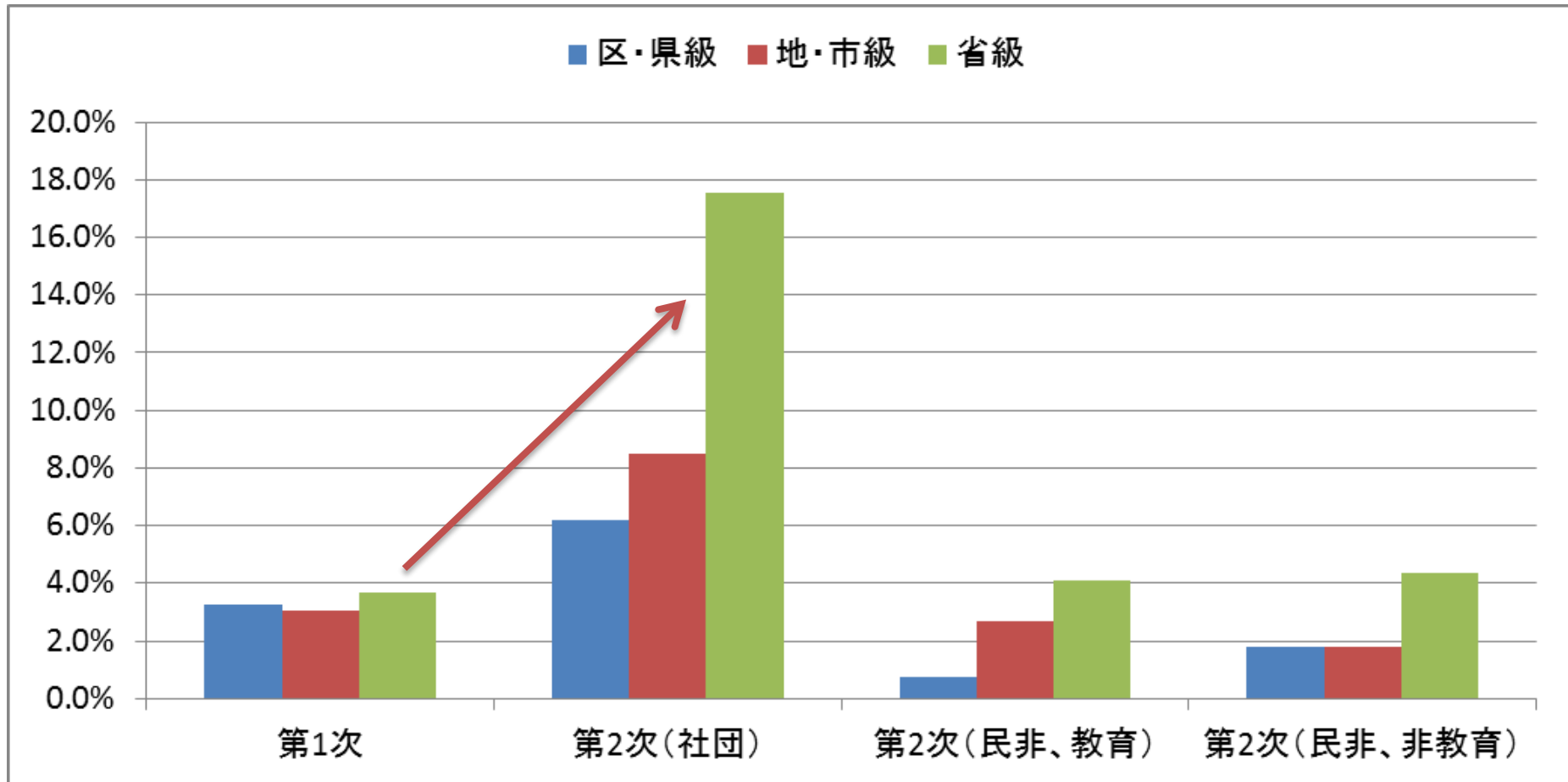
中国（第2次）の推定結果

Complexity: 205
LogLikelihood: -5.155
N: 1252



- 団体分類とともに、**行政レベルの違いそのものが政策の実施・阻止を決める要因となっている**。リソースやネットワークは直接的な原因ではなく、政治的要因でローカルレベルのアドボカシーが制約されている実態の反映か。

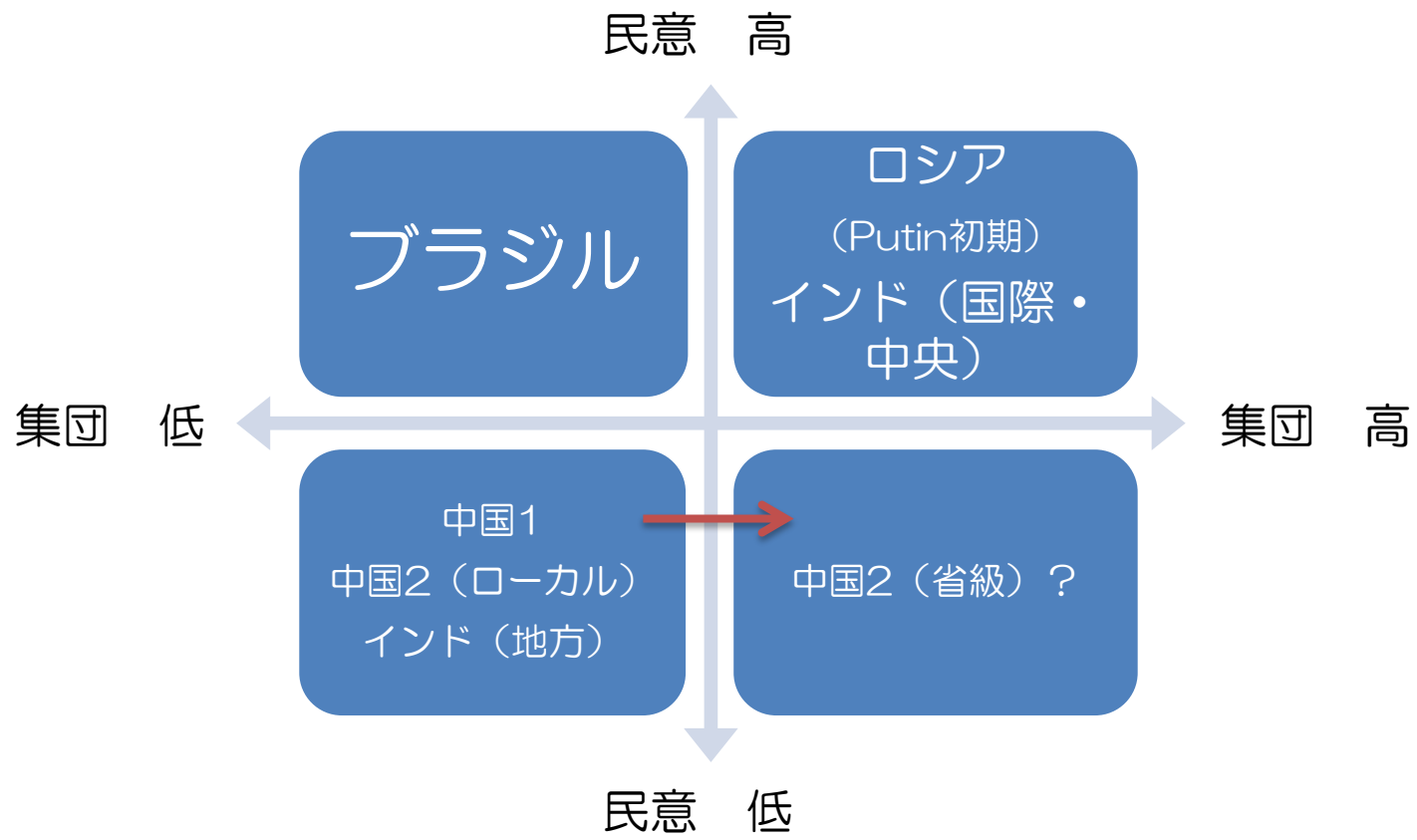
中国政治構造の変化の兆し 政策の実施・阻止経験の割合



社団は第2次で増加、格差（上向き）も拡大

4. 2. 国際比較研究を通して政治体制の質を測る

- 同じ政治体制でもその質には多様性がある
- 中国を例に
 - 社会集団への応答性（横軸）と
民意への応答性（縦軸）で類型化試論



まとめ：多元比較による理論化の展望

- **体制の質**：国家・市民社会の相関、双方向性を解く。
- 各国の政治制度・政治権力の集中度と市民社会の団体分類・組織間関係・活動範囲・標的などに関連づける
- **変動**：政治変動をモデル化する。民主化など政治変動と国家・市民社会関係
- **グローバル化**した世界での市民社会：市民社会と市場、市民社会と国際関係、トランスナショナリズム

